

News Letter

TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184 <https://www.kokudo.or.jp>

『佐渡島の金山』 ユネスコ世界遺産登録！

2024年（令和6年）7月27日にインド・ニューデリーで開かれたユネスコの世界遺産委員会は、「佐渡島の金山」（新潟県佐渡市）を世界文化遺産に登録することを決めました。これで、日本の世界遺産登録は26件目となります。世界遺産に登録されたことによって、佐渡は特に歴史に興味を持つ外国人観光客にとって魅力的な観光地となり、日本人を含む多くの観光客が佐渡を訪れることで、観光業への期待が高まっています。今号では世界遺産登録記念として、「佐渡島の金山」を特集いたします。

佐渡市の地勢

佐渡市は佐渡島全域を市域とする市で、2004年（平成16年）年に島内の10市町村（両津市、佐渡郡相川町、佐和田町、金井町、新穂村、畑野町、真野町、小木町、羽茂町、赤泊村）が合併して誕生し、2024年（令和6年）に市制施行 20周年を迎えました。海岸線は約 280キロメートル、面積は約 855 平方キロメートル、東京23区の1.5倍の広さがある本州最大の島で、人口は約5万人です。東京から新幹線と高速船を使えば、最短3時間30分で行くことができます。日本でも有数の豪雪地帯、新潟県の沖に浮かぶ島ですが、周りを流れる対馬暖流のおかげで、冬は暖かく積雪も少ないので住みやすいといわれています。



佐渡島の金山の歴史

佐渡島の金山は、1601年（慶長6年）に開山されたと伝えられています。1603年（慶長8年）には、徳川幕府直轄の天領として佐渡奉行所が置かれ、小判の製造が行われました。江戸時代には日本最大の金山として幕府の財政を支えました。佐渡には金山を目当てに全国各地から大勢の人が集まり、最盛期には、現在と同じ約5万人もの人が暮らしていたそうです。佐渡で確立された鉱山技術は、国内各地の鉱山開発に大きな影響を与えました。このような歴史を持つ佐渡金山ですが、1989年（平成元年）には、資源枯渇のため操業を休止し、400年近くに及ぶ長い歴史の幕を閉じました。

※弊会が毎年発行しているカレンダー付き

「全国市町村マップ」では、日本にある世界遺産を写真付きで紹介しており、2025年版には今回ご紹介した「佐渡島の金山」が追加されています。

「2025年全国市町村マップ」は弊会HP (<https://www.kokudo.or.jp/service/calendar.html>) にて無償配布のご案内をしております。



「佐渡島の金山」の読み方は？

「佐渡島の金山」については、「さど」や「さどしま」、「さどがしま」など、様々な読み方が推測されます。どれが正しいのか、新潟県と佐渡市にそれぞれ伺ってみました。

—ユネスコの世界遺産に登録するための推薦名称として「佐渡島の金山」（英語：SADO Island Gold Mines）を使用しました。世界遺産の審査においてその価値を説明するにあたり、海外の方々に佐渡は「島」という立地であること、その島に「金山」があることを強調し、シンプルで発音しやすい名称として、「佐渡島の金山」とした経緯があります。—とのことでした。海外の方々にもわかりやすい読み方を使用しているのは、県も佐渡市も同じ見解でした。

さらに佐渡市からは補足説明もいただきました。—「佐渡島」/「佐渡ヶ島」については、現在、国土地理院は「佐渡島」、国土交通省は「佐渡島」と表記しています。また、言葉の響きで「佐渡ヶ島」と表記・発音したほうが「しっくりくる」という意見もあり、「が」を入れることもあります。佐渡市の資料・ホームページなどでは「佐渡島」または「佐渡」の表記が多いです。公式な読み方は決まっておらず、「佐渡島」がよいかと思いますが、ケースによって使い分けていただいても構いません。—

正式な読み方は決まっていないものの、世界遺産登録においては国内外の方に広く伝わるように、色々な考えの中で決定されたということを知ることができました。

佐渡島の金山の概要

「西三川砂金山」は佐渡の南西部に位置し、平安時代の「今昔物語集」にも登場したとされる、佐渡最古の砂金山といわれています。西三川では砂金を採るために、砂金が含まれている山を掘り崩し、余分な石や土を大量の水で洗い流してから、残った砂金を「ゆり板」（水中で、比重の大きい砂鉄などの鉱物と、砂金を分離するために使用する木製の板。長方形が多い。）で選り取り「大流し」という方法がとられていたようです。西三川砂金山は1872年（明治5年）に閉山となりました。

「鶴子銀山」は、1542年（天文11年）から1946年（昭和21年）まで採掘が続けられていたといわれています。1542年（天文11年）、越後国（新潟県）の商人が、沖合から山が光って見えたため、上陸して調べたところ銀が発掘されたと伝えられます。鶴子銀山では、効率的な方法として、あらかじめ鉱脈がどこにあるかを調べて、山腹から坑道を掘って地中の鉱脈を目指す「坑道掘り」が可能となり、銀の産出量が飛躍的に増加しました。鶴子銀山の発見、それに続く開発は、島内の鉱山全体に大きな影響をあたえ、相川で大規模な金銀鉱脈が発見されるきっかけとなりました。相川金銀山が発見されると、鉱山労働者は次第に鶴子から相川へ移っていきました。

「相川金銀山」は、江戸時代に国内最大の金産出量を誇った鉱山で、日本最大の金銀山といわれています。相川金銀山で掘られた金の一部は、西三川の砂金とともに相川で小判に加工され、銀とともに江戸へと運ばれました。幕府は、直轄地であった佐渡の金銀を資金として外国との貿易に利用し、国の財政を支え続ける原資としました。明治になると相川金銀山は機械化され、大規模な生産が行われるようになりましたが、古い時代の遺跡が破壊されずに残され、金生産技術の歴史を示す多くの資産が残っていたため、世界遺産登録へとつながりました。



どうゆう わりと
道遊の割戸

佐渡市の難読地名

佐渡市にある地名にまつわる由来と、その地区の旅memoをご紹介します。

①四十物町：慶長年間の町割で四十物（魚などの干物のことで鮮魚と乾魚との中間物の意味。40種程あったからとされている。）を扱う商人が集住したことに由来するといわれています。

【旅memo】四十物町がある相川地区には、徳川幕府の財政を支える佐渡金山を管理した「佐渡奉行所」があります。当時の建物が忠実に再現されており、館内には発掘調査で出土した物をはじめ、当時の生活がうかがえる資料が展示されています。江戸時代にタイムスリップしたような体験ができるかもしれません。

②願：佐渡では磯漁をすることを「磯ねぎ」といい、その「ねぎ合い」が訛ったものといわれています。

【旅memo】願にある絶景スポットとして人気高い景勝地「大野亀」「ニツ亀」は佐渡ドライブには最適のスポットです。大野亀は、海に向かって標高167mの一枚岩が突き出している巨岩で、頂上まで散策道が作られ、5月下旬～6月上旬には「トビシマカンゾウ」（ユリ科）の群生地として知られています。ニツ亀は、2匹の亀がうすくまったように見える岩で、その周辺は「日本の快水浴場100選」に選ばれ、海水の透明度が高く、海水浴を楽しむ人が多く訪れています。

佐渡の伝統文化



金銀山の繁栄に伴い、国内各地から佐渡へ人々が集まったため、各地の文化が持ち込まれました。

佐渡おけさ

佐渡市に伝わる「おけさ節」で、現在は佐渡を代表する民謡として全国に知られています。江戸時代初期、金銀積み出しなどにより小木港が繁栄したことにより、各地の文化が海を越えて伝えられました。江戸時代に北九州に流行したハイヤ節が佐渡に伝わった後に変化し、おけさ節になったといわれています。

伝統芸能「やわらぎ」

金銀鉱脈の発見を願う鉱山の祝歌で、佐渡金銀山が繁栄した江戸時代に「固い鉱石がやわらぐように」「山の神様の心がやわらぐように」という意味があるといわれています。大山祇神社の神前で奉納される、鉱山特有の神事芸能です。

鬼太鼓

厄を払い、家内安全や豊年を祈る神事です。佐渡の鬼太鼓の起源は古く、延享年間（1744～1748）の相川祭の絵図に既に鬼太鼓が描かれています。金銀山の抗夫が鬼の面をかぶって太鼓を打つもので、舞い方が異なる多様な鬼太鼓があるといわれています。現在でも、神社の例祭、集落の春祭り、豆まき等、いろいろな場面で奉納されています。

文弥人形

文弥人形の元形である文弥節は、江戸時代後期に関西で流行したものが佐渡へ伝えられたといわれています。1人で1体の人形を操る人形芝居で、1872年（明治5年）に沢根集落と小木集落の文弥語りによって創始されました。国の重要無形民俗文化財に指定されています。

無名異焼

金山周辺から採れる赤い土「無名異」を使用した陶器です。相川には人間国宝に認定された伊藤赤水の窯元があります。

能

1604年（慶長9年）に来島した、甲斐武田氏、次いで徳川氏の家臣となった戦国武将、大久保長安が、大山祇神社等で演能を催し、現在の佐渡に伝わる能文化の礎を築いたとされています。佐渡には今でも30以上の能舞台が残されています。

第43回 地図地理検定のご案内

主催（一財）日本地図センター、（公財）国土地理協会

- 試験日 : 2025（令和7）年6月15日（日）予定
- 試験時間／問題数
地図地理検定（基礎） : 13:30～14:20・全問択一式、100点満点
地図地理検定（専門） : 15:00～16:00・択一式15問、記述式9問、100点満点
- 実施都市 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
- 受験資格 どなたでも受験できます。年齢等、一切の制限はございません。

前回の問題は
ココでチェック!

地図地理検定

検索

受検料

基本受検のほかにリピーター割引、学生割引、シニア割引等があります。5名以上なら団体受検もできます。

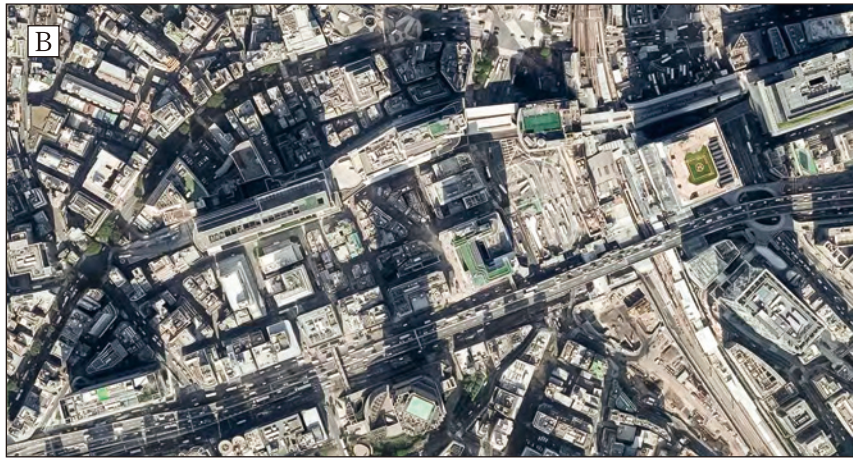
	地図地理検定（基礎）	地図地理検定（専門）	基礎・専門の併願
基本受検料	3,000円	4,000円	5,000円
各種割引	2,000円	3,000円	4,000円

詳しくは地図地理検定ホームページ (<https://www.jmc.or.jp/keihatsu-kyouiku/chizuken/>) をご覧ください。

地図地理クイズ!

(第40回地図地理検定より出題)

問 次の A～C の空中写真は、東京都渋谷区の渋谷駅周辺を示したものである。A～C の空中写真を古いものから新しいものへ順に並べたときの正しい順番を、後の①～⑥のうちから1つ選べ。



- ① A→B→C
- ② A→C→B
- ③ B→A→C
- ④ B→C→A
- ⑤ C→A→B
- ⑥ C→B→A

【答え】⑤
 【解説】 都心部の写真は、高層ビルが多さに注目する。山手線を止めての複数回にわたる渋谷駅の工事は、ニュータウンなどでも話題となった。AとCのみられる白いもこもこした形の屋根が「かまぼこ型の屋根」で親しまれた東急東横線の渋谷駅であり、これは2013年に地下化された。同じ位置に11ホート有する高層ビルがみられるBが一番新しい空中写真である。なお、このビルが渋谷スカリエである。BとAでは、渋谷駅から西に延びている細長いビルがみられる。Cは建物が無線路が複数みられるため、Cが一番古い空中写真である。これが渋谷スクランブル交差点で、東京メトロ銀座線の車庫がビル3階部分にある。よって、C→A→Bの順であり、正解は⑤である。なお、Cが1979年、Aが2009年、Bが2019年の空中写真で、すべて北が上である。

ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番1号
 TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184
 URL <https://www.kokudo.or.jp>